

令和6年度 千葉県 英語教育改善プラン

目標

積極的に英語を使い、コミュニケーションを楽しみ、自分の気持ち等を伝え合うことができる児童の育成。

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①・・・授業における児童の英語による言語活動時間の割合が全国平均と同等だった。

	全国平均	千葉県
5年	94.1%	95.0%
6年	94.6%	94.1%

②・・・「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の公表が進んだ。

	R4	R5
公表	17.2% → 24.4%	
把握	41.1% → 48.8%	

未だ改善が必要な点

①・・・小中学校が接続したカリキュラムや学習到達目標の設定に取り組んだ割合が低く、小中が連携して情報交換をさらに進めていく必要がある。

	全国平均	千葉県
小学校5・6年	27.6%	18.4%

②・・・外国語担当教員に対し、指導力向上を目的とした研修が不足していると回答した教員が70%超えている。
(千葉県独自調査)

2. 要因分析

①・・・小中連携推進協議会、研修及び教育事務所の学校訪問の際、授業改善を目的とした指導によって教員の意識が高まり、言語活動の割合を高い水準で維持できている。

②・・・①と同じ機会に、「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を設定した上で、パフォーマンステストに取り組むように研修したことで、児童への到達目標についての説明や達成状況の把握が進んでいる。

①・・・小中学校において相互授業参観等の実施が少なく、中学校の指導内容等に対して、小学校の教師の理解が進んでいない。加えて学習到達目標を小中連携して検討する機会を設置できていない。

②・・・授業実践が進み、教師にとって研修で求める内容も変化している。また、働き方改革等により研修機会を増加することが難しい現状がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①・・・各種研修や学校訪問において、継続的に言語活動を通じた授業について指導助言していく。加えて、言語活動がさらに充実するように、全県の指導方針の統一及び指導主事の連携強化を図るため、指導主事会議において情報交換や勉強会等を行い、指導主事の指導力向上を図る。

②・・・小学校教師の「CAN-DOリスト」における理解が促進されるよう、研修等を実施する。また、学校訪問の際には、「CAN-DOリスト」による学習到達目標の公表や児童の英語力の把握する視点を踏まえるとともに、必要に応じて学校の現状に合わせて修正するよう指導主事が指導助言を行っていく。

①・・・各種研修において、小中学校の授業実践を共有するとともに、相互授業参観を促進し、学校訪問等で小中連携を視点に入れた指導主事による指導助言を行っていく。小中連携推進協議会において、小中が連携した学習到達目標が検討できるようにしていく。

②・・・研修の質的改善として、小学校外国語スキルアップ研修において、音声から文字への指導、評価等、教師の課題等を把握して実施していく。また、文部科学省のオンライン研修を活用するとともに、千葉県作成の研修動画やMEXT channelを活用することで動画による研修機会の確保になるよう周知を図っていく。

令和6年度 千葉県 英語教育改善プラン

目標

英語を使って、自分の気持ちや考えを即興で伝え合することができる生徒の育成。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R5：53.7%⇒R6：59%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①・・・授業における生徒が英語で言語活動をしている時間の占める割合が改善している。

	R4	R5
中1	69.2%	→ 68.4%
中2	63.8%	→ 67.4%
中3	64.8 %	→ 66.1%

②・・・全国学調の「聞くこと」の領域で全国平均を上回った。

	全国平均	千葉県
	58.4%	59.4%

未だ改善が必要な点

①・・・生徒が英語で言語活動をしている時間の割合は上昇しているが、千葉県はこの項目の目標値を100%とし、英語の授業は言語活動を通して行うことを求めているが、達成できていない。

②・・・中学3年生でCEFR A1相当以上の英語力を有している生徒の割合について、千葉県はR7年度までに60%を目標にしているが達成できていない。

2. 要因分析

①・・・言語活動の充実に向けた研修を実施したことで、教員の意識が高まっている。

発信力を高める授業の好事例を周知したことや学校訪問における指導助言も効果的であったと考えられる。

②・・・英語で言語活動をしている時間の割合が上昇したことにより、英語を聞き取る力が向上してきていると思われる。

①・・・生徒が英語で言語活動をしている時間の割合が学年が上がるにつれて下がっているのは、言語活動を通さずに文法指導等に時間を割いていることが考えられる。

②・・・中学3年生の英語力は、様々な指標を複合的に用いて生徒の英語力を見取る必要があるが、1回の全国学調や外部検定の結果のみを参考にしてしている可能性が考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

生徒の英語力向上に向けて、「授業改善」「教員の英語力向上」が必要だと位置づけ、県として研修や事業を実施する。

◆外国語教育小・中・高連携モデル事業

発信力を高めるための授業について研究し、好事例として発信していく。

◆パフォーマンステストに係る県独自問題作成

パフォーマンステストを活用し、発信力を高めるとともに、生徒が英語で言語活動を行う時間を増加させる。

◆4技能向上English Workshop

教員の英語力向上を図ることで、教員の英語による発話量の増加を通して、生徒の英語による言語活動の充実につなげることで生徒の英語力向上を目指す。

◆英語教育連絡協議会

英語教育実施状況調査の結果分析と生徒の英語力の見取り方法の確認を行い、周知する。。

◆外国語教育におけるICTの効果的な活用研修

ICTやデジタル教科書を活用することで生徒の英語による言語活動が実践できるように研修を行うことにより、授業改善を促進させる。

◆英語力・指導力向上のための実践的なオンライン研修

文部科学省が実施する研修への積極的な参加を促し、授業改善と英語力向上を図っていく。また、受講生は授業公開や研修内容の発表等を促していく。

令和6年度 千葉県 英語教育改善プラン

目標

英語を使って、社会問題等について、相手に分かりやすく説明し、討論することができる生徒の育成。

- CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 45.9% ⇒ R6 : 59%)
- CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 21.9% ⇒ R6 : 30%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①・・・CEFR B2以上を取得している英語教員の割合が向上した。
R4 R5
教員 63.9% → 75.0%
- ②・・・「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定状況が改善されている。
R4 R5
高全体 58.2% → 75.3%

未だ改善が必要な点

- ①・・・達成値が十分でない項目が複数ある。
R5達成値
・言語活動の割合 ...49.9%
・パフォーマンステストのバランス ...36.1%
・教員の英語使用 ...42.1%
- ②・・・生徒の言語活動の割合に変化がないが、CEFR A2相当の英語力を有していると思われる割合が下がっている。
R4 R5
高3 46.5% → 45.9%

2. 要因分析

- ①・・・教員の指導力・英語力の向上を図る研修効果の検証に外部試験を活用しており、少しずつ資格取得数が増えてきている。また、校内研修や学校訪問の指導助言等により、教員の意識が高まっていることも要因の一つと考えられる。
- ②・・・研修や学校訪問時に、指導と評価の一体化について伝達することで、到達目標を意識した授業改善が進んでいると考えられる。
- ①・・・本文読解や文法指導などの指導に多くの時間を費やしている指導が見受けられ、授業中に英語を使用する機会の確保が十分に行われていないことが要因と考えられる。
- ②・・・外部検定等の結果のみによらない英語力の判断において、話す・書くのバランスが取れたパフォーマンステスト等の実施が十分でないことなどから、適切な見取りが行われていない可能性がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- 生徒の英語力向上に向けて、「授業改善」「教員の英語力向上」が必要だと位置づけ、県として研修や事業を実施する。
 - ◆AI英会話学習支援システムを活用した発信力を高める実証研究
県内2校で、AI英会話と授業を連動させ、授業改善及び生徒の学習意欲向上を図る実証研究を行う。成果を広く県内に周知し、ICTの効果的な活用を図る。
 - ◆4技能向上English Workshop
教員の英語力向上を図ることで、教員の英語による発話量を増加させ、生徒の英語による言語活動の充実につなげる。
 - ◆パフォーマンステストに係る県独自問題作成
パフォーマンステストを活用し、発信力を高めるとともに、生徒が英語で言語活動を行う時間を増加させる。
 - ◆外国語教育小・中・高連携モデル事業
発信力を高めるための授業について研究し、好事例として発信していく。
 - ◆英語力・指導力向上のための実践的なオンライン研修
文部科学省が実施する研修への積極的な参加を促し、授業改善と英語力向上を図っていく。また、受講生には授業公開や研修内容の発表等を促していく。特にグローバルに活躍する層を増やすための研修への参加を呼びかけ、指導力向上を図る。

千葉県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		58	45.9	59		60		60		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		30	21.9	30		33		36		40	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	49.9	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	36.1	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	75.3	100		100		100		100	
		公表（％）	100	40.9	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	43.5	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		90	75	95		100		100		100	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		100	42.1	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		58	53.7	59		60		60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	67.3	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	75.1	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	95.5	100		100		100		100	
		公表（％）	100	48.4	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	66.1	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		65	44.7	70		75		75		75	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		100	61	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	61.1	100		100		100		100	
		公表（％）	100	24.4	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	48.8	100		100		100		100	